

【プログラム名】

◎子育てで大事にしたいこと

家庭教育支援ガイドブック「子育てで大事なことは、さじ加減」

1 プログラムの準備等

○適切な実施時期：いつでも

○実施時間：約 50 分間（説明 5 分、プログラム 45 分）

○対象：児童期（小学校中学年～高学年）の子どもの保護者

○準備物、配布物

【配布物】※ファシリテーターの指示で配布

- ・家庭教育支援ガイドブック「子育てで大事なことは、さじ加減」
- ・家庭教育支援プログラムワークシート

【備品】

- ・ホワイトボード等

○その他（座席など）

- ・特に指定なし



2 展開例 (15:00～15:50 に実施の場合)

時間	プログラムの内容	ポイント 等
15:00～ (5分)	○開会 ・ファシリテーターあいさつ、自己紹介 ・今日の講座の趣旨と流れの説明	・ファシリテーター2名(進行役と板書/配布/読み上げ係) ・子育てで大事なことは何か、考える機会とする。
15:05～ (5分)	○アイスブレイク 【参加者同士で自己紹介】 (やり方) ①2人一組で、順番に自己紹介をする。1人2分×2 ②(内容) 自身の名前 / 子どもの紹介 / 子育てで大事にしている事は何か?	・隣同士でペアになる。 ・「大事にしている事」を考える →「思いつかない」「うまく表現できない」も有りとする。正解はひとつではない。
15:10～ (6分)	○グループワーク 【Work①「過保護について考えてみよう①」】 (やり方) ①「過保護とは」 個人作業：ワークシートに記入。1分 ②グループ内で共有 3分 ③「過保護とは」説明(読み上げ) 2分	・家庭教育支援プログラムワークシート配布 ・「過保護とは」の説明文を準備しておく。 (参考) 広辞苑などから ・グループ：ファシリテーター側で指示する。グループサイズ：1グループ4人 ・ファシリテーター(読み上げ係)
15:16～ (14分)	【Work②「過保護について考えてみよう②」】 (やり方) ①「過保護はよくない?なぜ?」(理由を考える) 個人作業：家庭教育支援プログラムワークシートに記入。 1分 ②グループ内で共有 5分 ③発表、全体共有 5分 ④学校の先生が同席の場合：意見を聞く(3分)	★活発な話し合いができる場合は、個人作業無し。 ・2～3人に聞く、板書する。 ・先生に事前に依頼しておく。 ・過保護は、子どもの成長にとってプラスの面はない事を全体で確認する。

<p>15:30～ (10分)</p>	<p>○ガイドブックの共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援ガイドブック「子育てで大事なことは、さじ加減」を配布 ・「子育てで大事にしたい4つの要素」を説明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの要素:読めばわかる事なので、細かい解説は無し。「黒ぼち・」2つ選び、具体例、エピソード紹介。
<p>15:40～ (7分)</p>	<p>○ペアワーク</p> <p>【Work③「我が子に合わせたさじ加減で子育てをするには、何を大事にしますか？」】</p> <p>(やり方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人作業：ワークシートに記入。1分 ②2人一組で共有 2分 ③全体共有 4分 	<ul style="list-style-type: none"> ・では、どうすればいいのかを考える。 ・ペアワークなので、「相方のいいね」の発表を促す。(他己発表)
<p>15:47～ (3分)</p>	<p>○まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーター二人の「大事にしたいこと」シンプルにひと言。説明、理由は無し。
<p>15:50</p>	<p>○閉会</p>	

◎ 子育てで大事にしたいこと

家庭教育支援ガイドブック「子育てで大事なことは、さじ加減」

Work① 過保護について考えてみよう 「過保護とは」

Work② 過保護について考えてみよう 「過保護はよくない？ なぜ？」

Work③ 「我が子に合わせたさじ加減で子育てをするには、あなたは何を大事にしますか？」

子育てで大事なことは、さじ加減

子育てでは
「過保護はよくない」と
言うけれど、
どんなことに
気をつけたらいいの？



子育てで大事にしたい4つの要素

世話

- ・世話をすることは乳幼児期には重要であるが、その子の成長に合わせて徐々に手を離し「自分のことは自分でできる」ように自立させていくことが大切
- ・お手本を見せながら、ていねいに教えてできることを増やす。失敗しても責めずに繰り返し教え、できたらほめることで自信をもたせることが必要

指示

- ・親は先回りして指示を出してしまいがちだが、失敗することも成長には必要と考えて見守る場面も大切
- ・指示されて行動することが多いと、自分で考えて行動する力が育ちにくい
- ・子どもは指示されて行動して失敗すると、自分の責任ではなく、ほかの人のせいにするようになる

授与

- ・欲しい物が本当に必要なものか、一緒に考えることが大切
- ・欲しがるものを何でも与えると、感謝する気持ちや物のありがたさや大切にしている気持ちが育ちにくい
- ・我慢することも心を成長させるためには必要

受容

- ・その子自身を認め受容することが大切
- ・日頃の子どもの様子をよく見て、その子自身の思いや成長を受容し、ほかの人の迷惑を考えない自己中心的な行動は許さないき然とした態度をとることが重要

子どもに合わせたさじ加減で上手に子育て